



# WWL 米国UNIS研修 2023



名古屋大学教育学部附属高等学校

## 研修全体の目的

ニューヨークという世界の中心で、国際的視野を広めるため、2024年2月20～26日にアメリカへ研修に行った。国連機関であるUNIS (United Nations International School) の生徒との交流をもとに、アメリカの社会や教育事情を知り、国際社会の理解を深める。

## UNIS

### 1 目的

アメリカ (人種のるつぼ) × 国連の繋がりがもたらす子供達の将来設計を探る

### 2 課題

- ①授業の特色とそれが生徒に与える影響
- ②校風の背景にある設備面の工夫
- ③子供達どうしの交流が成り立つ基盤

### 3 検証・調査内容

UNISを訪問し、学校見学と授業参加を行う。UNISの生徒とペアで市街見学をし、話を伺う。

### 4 結果

- ①第3言語・楽器の習得、映画・音響・劇の授業内で国連で重要視されたSDGを話題に
  - ⇒ 国連との繋がりを意識
    - ・多角的で広い視野を身につける
    - ・世界中の人と良好な関係を作る
    - ・生徒それぞれのルーツを大切に
    - ・周りの人のルーツを認める

### ②自由と積極性を促進させる工夫

椅子が机と一体化し、キャストで移動が可能  
⇒より多くの議論を

多言語での多読を推奨：すぐに手に取れるような本の配置、本の表紙を見せる

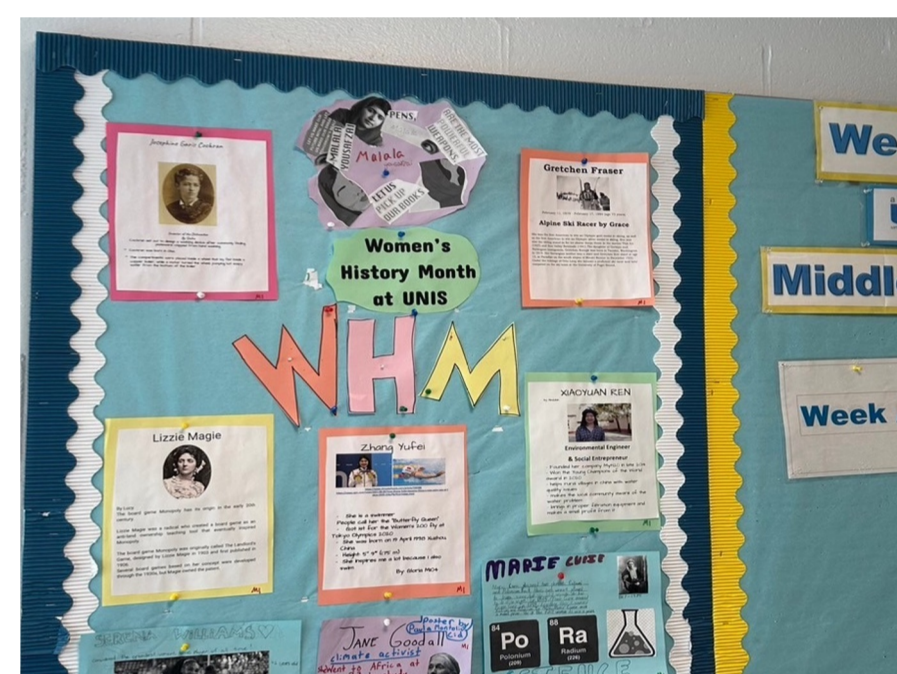
授業面と自由時間で自由と積極性の尊重

### ③自由を認め、価値観や文化を受け入れるという考え方が生徒に備わっている

⇒さまざまな国の子どもが集まっているが、人種に関係なく交流できる

### 5 考察・感想

人種の多様性から子供達のアイデンティティの尊重を大切にしているように感じた。それぞれの異なるルーツや文化等に影響される価値観の違いを尊重することで互いの将来形成に役立っているのではないかと考えた。



## 国連本部

### 1 目的

国連本部の見学やツアーを通じて、日本が国際社会において持つ影響力を知る。また、日本のプレゼンスを高めるために必要な事を探る。

### 2 課題

- ・国連における日本の存在感や影響力
- ・国連において現在日本が主導して行っている活動

### 3 検証・調査内容

国連本部見学  
国連職員の青木さんの講談拝聴

### 4 結果

日本は世界最多の非常任理事国に (12回目)  
日本人が平和の鐘と日本庭園を寄贈

### 5 考察・感想

現在日本は安保理の非常任理事国に選ばれていたり、分担金を多く負担したりするなどして存在感を持ち、経済面では途上国支援など大きな役割を果たすことが出来ている。日本に足りないことは、国際協力や外交の面だと考えた。国際的な課題に対して積極的な解決策を提示し、地域や世界の平和に寄与すること、また、日本人職員を増やすことも重要だと考えた。



## アメリカインディアン博物館

### 1 目的

アメリカが人種のるつぼ、サラダボウルと呼ばれるに至った背景を知る

### 2 課題

- ・コロンブスなど探検家が与えた影響
- ・先住民族と移民の関係

### 3 検証・調査内容

博物館での展示を通して、多様な先住民族がもつ固有の特徴を捉え、ヨーロッパからの移民が、彼らに対しどのような対応を取ったのかを知る。

### 4 結果

コロンブスは、最初にアメリカ大陸を見つけたと言われるが、その結果、アメリカは植民地化され、先住民族の生活と土地は浸食されていった。

### 5 考察・感想

アメリカが人種のるつぼと呼ばれるに至り、経済大国になったこと背景には、先住民族の排斥があったことを忘れてはならない。



## エリス島博物館

### 1 目的

「移民の島」エリス島を見学し、多様性の国アメリカが形成された経緯について深め、考察する。

### 2 課題

アメリカ人とは？～移民の適応と文化の交錯～

### 3 検証・調査内容

かつて移民局があったエリス島を訪問。アメリカの街を見て社会のカタチを日本と比較する。

### 4 結果

リバティ島・エリス島：移民はリバティ島の前を通過し、エリス島へ到着する。アメリカへの入り口で、決して簡単ではない入国審査が行われていた。

エリス島博物館：西洋やアフリカ、アジアからの移民が先住民族と出会い、それぞれの文化を維持するため、独自のコミュニティを確立しようとした。

ニューヨークの街：チャイナタウンやリトルイタリー、コリアタウンではそれぞれの文化がはっきりと反映されていて、それぞれの国の人々が生活の場としていたり店を営んだりしている。

### 5 考察・感想

エリス島は、自由の女神に迎え入れられて満ちた希望、入国審査による悲しい別れへの嘆きなど、様々な思いの残されたアメリカの源なのだ感じた。街には、もちろん観光地でもあるが、日本のチャイナタウンなどよりもそれぞれの国の人が持ち込んだ文化や生活の息づく場所となる造りがある。当然ながら対立やヘイトも生まれることになるが、母国の人口増加や貧困から逃れ、アメリカで理想の生活を手にしようとしてきた移民にとって自分たちと違うものが隣にあるのはある程度当たり前で、その中でいかにアイデンティティを守っていくかが多様性社会形成の鍵となるのではないかと考えた。



## 9.11メモリアルミュージアム

### 1 目的

2001年9月11日にニューヨーク・ワールドトレードセンター (WTC) で起こった悲劇について、資料館に足を運び豊富な展示物から知識を深めるとともに、実際に出来事が起こった場所を訪問することで当時に想いを馳せ、学びをより深いものにする。

### 2 課題

- ①なぜWTCが標的となったのか
- ②何を目的とした攻撃だったのか
- ③どのような対策が実施されているか

### 3 検証・調査内容

ミュージアムで、実際に訪れなくては感じ取れないようなバイブスを掴む。情報が足りなければ、インターネットなどでも更なる情報収集を行う。

### 4 結果

- ①ツインタワーの高さが象徴的で、世界的な影響を与えるため
- ②アメリカの経済力を衰えさせることが狙いとされる。結果的にアメリカと同盟国との対テロ戦争のきっかけを作った。
- ③空港の荷物検査の厳重化など

### 5 考察・感想

アルカイダに、平和的に彼らの主張を実現させる方法を考えて、考察を深めることができると思う。数多くの資料から、戦争やテロの脅威が現代社会にも依然として存在することを再認識した。



## 次年度へ向けて

今回の研修で、私たちが教科書やニュースでしか見たことのないような施設や社会に触れることで、新たな視点を得ることができた。今後も国際交流を大切に、課題を考える時にはその視点を生かして周りの人にも発信し、さらなるグローバル化理解への接近を試みたい。